



「全国過疎問題シンポジウム 2024 in やまなし」

日本全体が人口減少社会を迎える中、特に過疎地域では人口減少や少子高齢化の進展による地域産業の衰退や生活基盤の弱体化、集落消滅の危機など、さまざまな課題に直面しています。

一方で、これらの地域は豊かな自然や農地・森林などを有し、水源の涵養、食料の生産、自然災害の防止などを通して、地域内のみならず、都市を含めた人々の生活や生産活動を支える公益的役割を担っています。

このことから、過疎地域のさまざまな取組について、更なる議論を深めるとともに、全国の優れた取組にふれ、参加者相互の交流を図るなど、人と人とのつながりを通じて将来に向けた取組を考える契機とするために「全国過疎問題シンポジウム2024 in やまなし」が令和6年10月24、25日に開催されました(※)。

今号では、初めて山梨県で開催された本シンポジウムの内容について特集します。

(※)「全国過疎問題シンポジウム2024 in やまなし」大会趣旨から抜粋。

<p>特集 01 山梨県</p>  <p>全体会及び交流会の概要</p> <p>山梨県総務部市町村課 主任 酒井 洋憲</p>	<p>特集 02 第1分科会 山梨市</p>  <p>過疎地域持続的発展優良事例発表会 及び現地視察</p> <p>山梨市総合政策課 主任 雨宮 雄貴</p>
<p>特集 03 第2分科会 北杜市</p>  <p>過疎地域持続的発展優良事例発表会 及び現地視察</p> <p>北杜市企画部企画課 課長補佐 吉田 武</p>	<p>特集 04 第3分科会 身延町</p>  <p>特産あけぼの大豆6次産業化事業取組紹介 及び現地視察</p> <p>身延町企画政策課 主幹 諏訪 一敏</p>
<p>特集 05 第4分科会 小菅村</p>  <p>ドローン配送事業取組紹介</p> <p>小菅村総務課 主任 佐藤 誠</p>	<p>特集 06 第4分科会 丹波山村</p>  <p>地方創生推進交付金活用事例及び 移住・定住促進事業取組紹介</p> <p>丹波山村地域創造課 主任 矢嶋 澄香</p>



特集 01

山梨県 全体会及び交流会の概要

山梨県総務部市町村課
主任 酒井 洋憲

はじめに

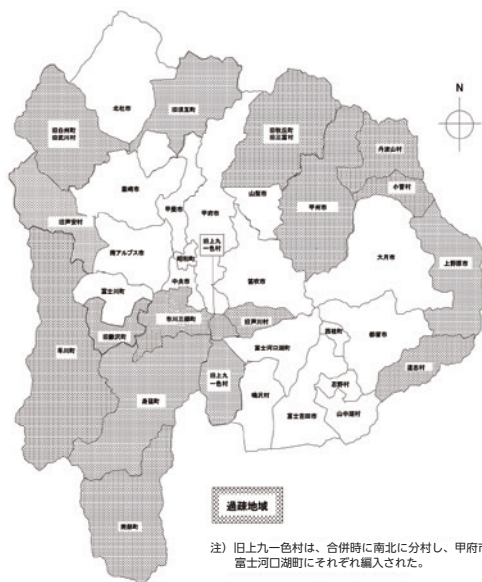
本県の過疎地域は、過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法（令和三年法律第一九号）に基づき、16市町村が公示されています。

また、同法に基づき、過疎対策事業債の起債や国庫補助率のかさ上げ、税制上の優遇措置など、過疎地域に対して様々な支援策が措置されています。

本県においても、県が行う過疎地域の持続的発展のための対策の大綱である「山梨県過疎地域持続的発展方針（令和三年度～令和七年度）」により、本県の過疎地域の持続的発展に向けた施策の指針を定めるとともに「山梨県過疎地域持続的発展計画（令和三年度～令和七年度）」により、過疎地域における様々な課題解決に向けて具体的な取り組みを進めているところです。

山梨県の過疎地域

郡市名	町村・区域名
甲府市	旧上九一色村の区域（経過措置）
山梨市	旧牧丘町、旧三富村の区域
南アルプス市	旧芦安村の区域
北杜市	旧須玉町、旧白州町、旧武川村の区域
笛吹市	旧芦川村の区域
上野原市	全域
甲州市	全域
西八代郡	市川三郷町
南巨摩郡	富士川町のうち旧緞沢町の区域
	早川町
	身延町
	南部町
南都留郡	道志村
	富士河口湖町のうち旧上九一色村の区域（経過措置）
北都留郡	小菅村
	丹波山村
16市町村	



注) 旧上九一色村は、合併時に南北に分村し、甲府市と富士河口湖町にそれぞれ編入された。

今年度、総務省と全国過疎問題シンポジウム実行委員会（山梨県、一般社団法人全国過疎地域連盟、山梨県地域振興対策協議会過疎部会）の共催により、「全国過疎問題シンポジウム2024 in やまなし」を開催しました。本シンポジウムは、過疎地域の様々な取り組みについて、更なる議論を深めるとともに、全国の優れた取り組みに触れ、参加者相互の交流を図るなど、人と人とのつながりを通じて将来に向けた取り組みを考える契機とすることを目的として、例年都道府県持ち回りで開催されており、今回で第35回目の開催となります。本年度は、「地域で生きる」暮らしを紡ぐ強さと豊かさの共創」をテーマとして、令和6年10月24日（木）・25日（金）に開催し、県内外から延べ約800名（交流会除く）の参加者が訪れ、盛況のうちに開催することができました。



全体会

■日時 令和6年10月24日（木） 13時～17時

■場所 YCC県民文化ホール（甲府市）

■内容

1 開会式

2 令和6年度過疎地域持続的発展優良事例表

彰式

○総務大臣賞

・ NPO法人南外さいかい市（秋田県大仙市）

・ 集落活動センターゆすはら連絡協議会（高知県梼原町）

・ 高限地区コミュニティ協議会（鹿児島県鹿屋市）

・ 一般社団法人Emore秋名（鹿児島県龍郷町）



○全国過疎地域連盟会長賞

・ 保育園留学推進協議会（北海道厚沢部町）

・ 羽州街道「檐下宿」研究会（山形県上山市）

・ 北杜市南アルプスユネスコエコパーク地域連絡会（山梨県北杜市）

・ 平川村定住推進協議会（岡山県高梁市）

・ 特定非営利活動法人郷の元氣（徳島県上勝町）

・ 特定非営利活動法人郷の元氣（徳島県上勝町）

3 基調講演

「統計データが示す人口の未来の作り方」

～長男跡取り文化からの脱却がなぜ重要なのか～



天野 馨南子 氏

((株) ニッセイ基礎研究所生活研究部
人口動態シニアリサーチャー)

4 パネルディスカッション

「地域で生きる」暮らしを紡ぐ強さと豊かさの共創」をテーマに、コーディネーターとパネリストの皆様方で活発な意見交換が行われました。

なお、実際の意見交換の様子は、次のURLに動画を公開しておりますので、ぜひ御覧ください。

URL : <https://www.pref.yamanashi.jp/spichoson/kasosympo.html>



パネリスト

石田 万梨奈 氏
(onozucolor 代表)

大岡 千紘 氏
(株)もと 代表取締役

近藤 建斗 氏
((株) NEXT DELIVERY 企画部部长代理)

深山 光信 氏
(五条ヶ丘活性化推進協議会 前会長)



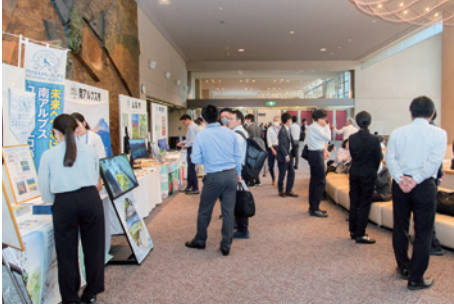
コーディネーター

筒井 一伸 氏
(鳥取大学地域学部教授)



全体会の会場外には、県内市町村等の観光PRを中心とした展示ブースが設けられ、来場者の皆様が興味深く見学していました。





交流会

■日時 令和6年10月24日(木) 18時～
 ■場所 バルクラシック甲府(甲府市)
 交流会では、全国から集まった参加者の方々が、県産ワインなど地場産品を味わいながら、有意義な情報交換を行いました。

終わりに

現在、全国で過疎地域に指定されている市町村は、1,718団体中885団体と、半数を超えており、過疎地域においては、人口減少や少子高齢化の進展等、他の地域と比較して厳しい社会経済情勢が継続している状況となっています。

一方で、過疎地域の中で、この地域を盛り上げようと頑張っている方々やこの地域を守っていくという強い意志と様々な創意工夫をもって熱心に地域活動に取り組みられている方々が多くいるということに、今回のシンポジウムからあらためて気付かされ、深く感銘を受けました。また、日本全体で人口が加速度的に減少していく中で、今後、各地域で活躍する人材の確保や育成が極めて重要であるということもあらためて認識させられました。

10年間の時限立法として、令和3年に施行された過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法が来年度末で折り返しとなり、今後、県及び各過疎市町村がそれぞれ策定している過疎地域持続的発展計画の見直しの時期を迎えます。今回のシンポジウムを通じて得た知見やネットワークを今後の過疎地域の持続的発展に向けた施策の展開に活かしていただければ幸いです。

最後に、「全国過疎問題シンポジウム2024 in やまなし」の開催にあたり、ご協力をいただいた総務省、一般社団法人全国過疎地域連盟、山梨県地域振興対策協議会過疎部会及び各市町村のご担当者様など多くの関係者の皆さまにあらためて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



特集 02

第1分科会 山梨市

過疎地域持続的発展優良事例発表会及び現地視察

山梨市総合政策課
主任 雨宮 雄貴

山梨市における過疎地域は、旧町村単位で「牧丘地域」及び「三富地域」の2地域が指定されており、市全体の81・7%を占めています。今回、山梨市牧丘町にある花かげホールを会場に第1分科会が開催され、全国から100名を超える多くの方にご参加いただきました。

1 過疎地域持続的発展優良事例発表会

近畿大学総合社会学部の講師である野田満（さんそデザイン共同代表）氏をコーディネーターに、受賞団体による事例発表が行われ、過疎地域の抱える課題解決のための取り組みを拝聴することができました。

総務大臣賞（2団体）

①「NPO法人南外さいかい市」（秋田県大仙市）

南外さいかい市の外小友地域では、唯一のスーパーの廃業により、買い物・交通弱者問題がより深刻な状況となったことから、課題解決のため行政主導の検討委員会を設立し、住民有志による運営協議会を主体に、行政が店舗や設備等の環境整備を支援する中で、公設民営型のミニスーパーマーケット「南外さいかい市」を始動しました。

②「高隈地区」コミュニティ協議会

（鹿児島県鹿屋市）

高隈地区では、少子高齢化の影響による買い物・交通弱者や空き家の増加、地域活動の維持等の課題を抱えていたため、将来のまちづくりを高隈地区全体で協議しようとして「高隈地区コミュニティ協議会」を設立しました。現在は地域資源を生かした観光ツアーの商品化などによる交流人口・関係人口の増加を目指すとともに、地域特産品を活用した収益事業にも挑戦しています。

全国過疎地域連盟会長賞（2団体）

①「保育園留学推進協議会」（北海道厚沢部町）

厚沢部町では、子育て支援策として移住者や地域住民が集い交流のできる認定こども園「はげる」を設立し、移住体験住宅を活用した移住施策など、人口増に向けた取り組みを進めていきましたが、若い世代の利用は少なく、いかに移住施策につなげていくのが課題でありました。このため、民間企業と保育園留学事業を推進するための連携協定を締結し、認定こども園と関係団体・機関とで構成する「保育園留学推進協

議会」を設立しました。現在は、これまでの移住施策や子育て支援策のプログラムを「保育園留学」としてパッケージ化し、子育て家族の受入や、ワーケーションを促進する中で超長期的な関係人口創出と地域活性化を図っています。

②「平川村定住推進協議会」（岡山県高梁市）

平川地域では、少子高齢化が加速する中、集落機能の維持・強化を図るため、特産品であるぶどうやトマト栽培をはじめ、定住・就農希望者と地域とのマッチングや農地・住居等の紹介・斡旋など、受入から就農までをサポートし、産地を維持し定住促進と地域活性化を図るための取り組みを行っています。



第1分科会 過疎地域持続的発展優良事例発表会

2 現地視察

優良事例発表会終了後は、巨峰ぶどうの名産地である牧丘町のワイナリーや廃校活用企業の見学、山梨市の施策説明等の現地視察にご参加いただきました。

① 「室伏ワイナリー」

室伏ワイナリー代表の小林剛士氏は、学生時代からワインに携わっており、甲州市勝沼町のワイナリーに就職後、牧丘町の気候や景観に良さを感じ、現在の牧丘町室伏にワイナリーを開業しました。小林氏は農家の高齢化も問題となっている中、農家の



現地視察(室伏ワイナリー)

② 「株式会社トプテック」

方が丹精込めて作られたぶどうを余すことなく活用できる場としてワイナリーを運営し、多くの方に「普段、日常的に飲むワインを提供したい」との思いで活動されています。現地視察では、ワインの試飲と併せて、ワインに合う食事として地域食材を使ったバケットサンドも市内事業者の協力を得る中でご提供いただきました。また、小林氏は「自分は過疎地域の出身で実際に廃集落を見ており、生まれ故郷も数十年で廃集落になってしまうのではと感じています。牧丘町や山梨市がそうならないとは言いが切れません。生まれて生活した場所の良さも悪さも理解しているつもりですが、やはり無くなるのには抵抗したいと考えています。首都圏も良いけど地方にも良さがあると思います。そこを見出して伝えることが今後の課題であり、伝えることができれば過疎地域とならずに人が住みたい地域になると思います。」と過疎地域に対する思いを伝えられました。

山間地にある牧丘地域及び三富地域では高齢化が進み、買い物弱者や空き家、耕作放棄地が増えるなどの課題を抱えています。このため、株式会社トプテックは廃校となっていた旧牧丘第三小学校に本社を移転し、ドローンの製造・販売、ドローンによる山岳地等への物資運搬や空撮による倒壊の恐れのある空き家の確認、果樹盗難抑止のための防犯パトロールなど、ドローンを主軸とした事業展開を行っています。また、飲

3 終わりに

食業も行っているため、現地視察では建物内の見学や事業説明のほか、地域食材を使ったお弁当もご提供いただき、参加された皆様に山梨県の食文化を味わっていただきました。



現地視察(株式会社トプテック)

最後に、今回のシンポジウム及び分科会では、全国の過疎地域における優れた取り組みを拝聴することができ、参加された皆様との貴重な意見交換など、本市にとっても大変有意義なものでありました。



特集 03

第2分科会 北杜市

過疎地域持続的発展優良事例発表会及び現地視察

北杜市企画部企画課
課長補佐 吉田 武

北杜市における過疎地域は、旧町村単位で「須玉地域」、「白州地域」及び「武川地域」の3地域が指定され、過疎地域は、市の61・9%（373・06km²）を占めています。

北杜市には2つのユネスコエコパークがあり、このうち白州・武川地域は南アルプス、須玉地域は、甲武信のユネスコエコパークのエリアに指定されており、優れた自然環境の永続的な保全と持続可能な利活用により、自然の恩恵を活かした地域づくりが行われています。

今回北杜市で開催された第2分科会は、こうした地域の特性を活かし、事例発表会は須玉地域、現地視察は白州・武川地域とし、広く北杜市を知っていただくこととしました。

1 過疎地域持続的発展優良事例発表会

北杜市須玉ふれあい館において開催された第2分科会過疎地域持続的発展優良事例発表会は、過疎地域持続的発展優良事例表彰委員会の委員長である法政大学現代福祉学部福祉コミュニケーション学科の岡司直也教授がコーディネーターとして進行し、取り組み事例の発表がありました。



第2分科会 過疎地域持続的発展優良事例発表会

総務大臣賞（2団体）

①「集落活動センターゆすはら連絡協議会」

（高知県梶原町）

四万十川の源流域に位置する梶原町において、明治の大合併時に合併した6つの村を区と

して残し、区を基本とした集落活動センターの仕組みづくりにより、生活・福祉・産業・防災など地域の課題やニーズなどの解決に向けて総合的に取り組んでいるとの発表がありました。

②「一般社団法人TONE秋名（鹿児島県龍郷町）」
令和3年にユネスコの世界自然遺産に登録された、奄美大島にある約6,000人の町である龍郷町において、50年後も子どもたちが住みたいと思えるシマ（集落）であり続けてほしいとの思いから、先人が守ってきた集落の自然・文化・暮らしぶりを将来に渡って存続させることを目標とした、飲食・宿泊・体験プログラムや関係人口創出などの取り組みについての発表がありました。

全国過疎地域連盟会長賞（3団体）

①「羽州街道「檜下宿」研究会」（山形県上市市）」
国史跡であり羽州街道の宿場町として栄えた当時の街並みが保存されている檜下宿において、受け継がれてきた茅葺文化を守っていくため、「かみのやま草屋根プロジェクト」を実践し、地域で茅場を再生し、収穫した茅で茅葺屋根を修繕するという活動を通じて、交流人口、関係人口を拡大することによる地域循環型の取り組みについての発表がありました。

②「北杜市南アルプスユネスコエコパーク地域連絡会」（北杜市）

北杜市の白州・武川エリアで立ち上がった地域密着型の活動組織で、平成26年に南アルプスがユネスコエコパークに登録されたことをきっかけに、3つの部会を中心に、登山道整備ワークショップや生物調査、自然災害伝承碑を活か



南アルプスユネスコエコパーク登録10周年を記念し設置した広告塔



北杜市南アルプスユネスコエコパーク地域連絡会による自然災害伝承碑を活かした防災伝承

した防災伝承、エコパーク登録10周年の記念として広告塔を設置したことなど、環境保全と人々の交流により地域活性化を図ってきたとの発表がありました。

2 現地視察

① サントリー天然水白州工場

南アルプスユネスコエコパークや自然に対する取り組みなどの紹介や説明により、北杜市の自然環境や地域の状況などを体感いただきました。

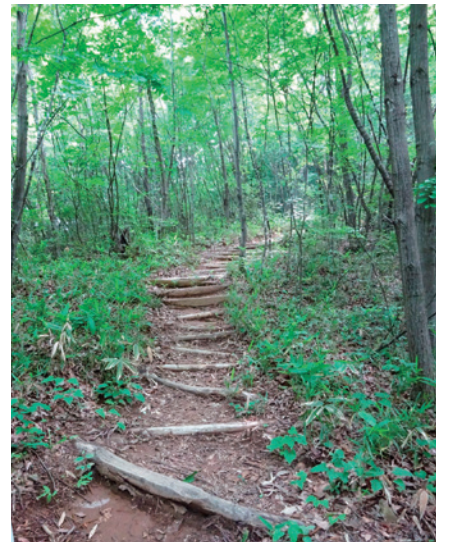
② 北杜市白州町の台ヶ原宿

地域の資源や旧甲州街道沿いの街並み景観を活かしながら地域の方々が連携して地域づくりを行っている現地をご案内しました。

③ 「特定非営利活動法人郷の元気」(徳島県上勝町)

農山漁村における中間支援の活動を行っており、地域資源を活用する中で、棚田オーナー制の創設、運営など、棚田を活用し地域を繋ぐサポートを行っているとの発表がありました。

その後、5団体での意見交換があり、コミュニケーションや取り組みの見える化、地域での方向性の共有などが重要であるとの意見が出され、過疎地域相互の連携がさらに広がることを期待し、事例発表会は閉会となりました。



北杜市南アルプスユネスコエコパーク地域連絡会による登山道整備の状況



現地視察 (台ヶ原宿)



現地視察 (サントリー天然水白州工場)

今回のシンポジウム及び分科会は、全国の過疎地域での様々な優れた取り組みを直接お聞きすることができ、有意義なものでありました。



特集 04

第3分科会 身延町

特産あけぼの大豆6次産業化 事業取組紹介及び現地視察

身延町企画政策課
主幹 諏訪 一敏

経緯

近年では、過疎債を活用した各種事業のほか、令和3年度に過疎地域持続的発展支援交付金により高齢者を中心としたデジタル活用支援事業、4年度に五条ヶ丘活性化推進協議会が過疎地域持続的発展優良事例表彰・全国過疎地域連盟会長賞の受賞など、県の支援を受けながら実施してきました。

4年度に県市町村課から全国過疎問題シンポジウム開催県として応募する旨の話があり、分科会会場として本町と本町の過疎対策への取り組みを全国に発信する絶好のチャンスと、その事務量との天秤に担当としても複雑な気分になったことを覚えています。シンポジウム開催時期が10月中旬から下旬とのこと、この時期に全国から迎えるとなれば、特産であり幻と言

われる「あけぼの大豆」の6次産業化事業の取り組みを紹介したいと考え、所管する産業課とともに準備を進めることになりました。

分科会

分科会のメインとなる特産あけぼの大豆は、県内ではご存じの方も多くなってきた印象ですが、一般的な大豆より粒が大きく、甘みが強い、そして枝豆は一般的なものは夏が旬であるのに対して、10月が旬となる極晩生種であることが特徴です。限られた気象条件や手作業での生産のため、流通量が限られその希少性の高さから幻の大豆と呼ばれています。本町の曙地区で江戸時代から栽培されてきたとされるあけぼの大豆は、平成28年度から町の活性化事業の一つとして、町、JA、商工会及び生産者代表による協議会を立ち上げ「特産あけぼの大豆でまちおこし事業」を展開しています。廃校となった小学校をあけぼの大豆拠点施設として整備、6次産業化事業の取り組みを推進し、その成果として、令和4年3月に農産物として県内初の地理的表示（GI）保護制度に登録されています。

取組紹介では、まずはあけぼの大豆を知っていただくため、あけぼの大豆PR動画を視聴していただきました。動画はあけぼの大豆の歴史や特徴などがダイジェスト版として編集されており、今回のシンポジウムにおいて最大限活用できたと自負しています。参加者の皆様の表情も大変興味深い様子で視聴していただいたことが印象に残っています。

続いて、実際にあけぼの大豆拠点施設で6次



あけぼの大豆

産業化事業の活動を主に担っている指定管理者のあけぼの農園（株）の浅野秀人さんによる事例発表を行いました。浅野さん自身もあけぼの大豆に惚れ込み、令和元年度から地域おこし協力隊として本町に移住しています。町のあけぼの大豆6次産業化事業のキーパーソンの一人であり、これまでの成功体験や苦労している点、そしてブランド価値の維持や後継者問題といった今後の課題や将来へ向けた展望など関心を寄せる事例発表となりました。参加者からは多くの質問が寄せられ、時間になっても質問がやまないなど充実した発表となりました。

なお、1日目に行われた交流会には、この時期が旬であるあけぼの大豆の枝豆を、素材の良さを最大限に味わえるよう塩ゆでにして8kg提

その他の視察

当日のコースには、旧千円札裏面の富士山のモデル地となった本栖湖からの富士山の絶景も



特産あけぼの大豆 6次産業化事業取組紹介

供し、全国の皆様に味わっていただきました。8kgの枝豆もその味の良さから大好評で、きれいに完食となりました。
 昼食も本町の特産を味わっていただけけるように、特産のゆばの製造・販売を行うみのぶゆばの里において、特産ゆば・あけぼの大豆御膳を用意いたしました。御膳は特産のゆばを生ゆばとして刺身、揚げ物、蒸し物等様々な味で楽しみ、またあけぼの大豆の枝豆も一緒に味わうことができ、女性にも嬉しい大豆を中心とした昼食を召し上がっていただきました。



現地視察（本栖湖）

用意しました。残念ながら町担当者の祈りが足りず、晴天の富士山をお見せすることは叶いませんでしたが、設置してある看板から、旧千円札の富士山の図柄との比較をして楽しんでいただきました。
 午後からは本町の代表的な観光資源である日蓮宗総本山身延山久遠寺の視察を行い、ガイドを務めるみぶ観光ボランティアガイドの会により、普段は見ることができない本堂の中なども視察することができました。
 締めくくりは1年中楽しめる大規模公園富士川クラフトパークに寄り、総合戦略による10年20年先の未来へとつなげる取り組みとして、地元身延高校生からの提案による「しだれ桜の里づくり事業」を紹介いたしました。これまでに富士川クラフトパーク内に約5,300本のし



現地視察（身延山久遠寺）

だれ桜を植樹し、クラウドファンディングの活用により、賛同者の名前入りプレートを設置する等により関係人口の創出を図っています。現在は自治会等による植栽活動も積極的に実施し、町内各地に約700本以上のしだれ桜を植栽していることを紹介いたしました。

終わりに

今回の分科会は、観光の町として、おもてなしの心で皆様を迎え、事例発表等を通じた本町の取り組みが、全国の皆様それぞれの将来に向けた取り組みの何らかのヒントになる1日となっていたただけたなら幸いです。

県市町村課の皆様には大変お世話になりました。紙面をお借りして改めて御礼申し上げます。



特集 05

第4分科会 小菅村 ドローン配送事業取組紹介

小菅村総務課
主任 佐藤 誠

この度の2024年10月24日から25日の2日間に渡り開催された「全国過疎問題シンポジウム2024 in やまなし」におかれましては、全体会・分科会を通して、当村の取り組みを全国の皆様にご紹介させていただくとともに、参加者の皆様から大変貴重なお話をいただくことで、将来に向けたさらなる取り組みの必要性について考える大変有意義な機会となりました。

今回、当村からはドローン配送事業の取り組み紹介と、分科会での現地視察を実施させていただける運びとなりました。当村は2020年11月にドローンの研究開発を行う株式会社エアロネクストと連携協定を締結し、ドローン配送事業の実現化およびドローン配送導入による地域活性化に向けた取り組みをスタートさせたところです。

初日の全体会では、株式会社エアロネクストの戦略子会社である株式会社NEXT

DELIVERY

より近藤建斗氏が登壇し、過疎化に起因する物流課題解決に対する思いや、全国に横展開が進んでいるドローン配送サービスの概要や今後の展望などについてお話をいただきました。パネルディスカッションにおいては、それぞれの地域に活動拠点を置いた経緯や、住民との合意形成の手法などについて活発な意見交換がなされていました。

2日目の分科会では、第4分科会として45名の皆様に当村までお越しいただき、全体会



ドローンデモフライト



事業説明 (分科会)

に引き続きNEXT DELIVERYの皆様より村内での具体的な取り組み内容や、能登半島地震におけるドローンを活用した災害支援の事例などをご紹介いただきました。中でも、ドローンのみならず陸路も含めた新スマート物流「SkyHub®」の取り組みは、デジタル田園都市国家構想の優良事例に採用されるなど全国的に注目を集めています。

当日はドローン実機の機体見学や道の駅周辺でのデモフライトも行い、総人口600人余りの当村における「SkyHub®」の取り組みが村民にとって大きなインフラとして機能しているということに皆様に感じていただけたのではないかと存じます。また、2024年4月には、道の駅内に新たに24時間買い物ができる無人コンビニ「SkyHub® スマートストアこすげ」をオープンし、こ

ちらも村民をはじめ道の駅の来訪者から好評をいただいているところです。

今回ご紹介させていただいたドローン配送事業のほか、包括

連携協定等を通じた官民協働の取り組みは、人口減少・担い手不足が深刻な過疎地域の発展にとってなくてはならないものです。当村では今後も地域課題への適切な対応ができるよう、官民協働の取り組みを推進して参りたいと存じます。



スマートストア

雑菌に弱く、温度や湿度に生育が左右されやすい繊細

第4分科会会場の丹波山村では、まず、村の特産品である原木舞茸の生産施設を見学していただきます。市場に出回っている舞茸のほとんどが菌床栽培ですが、原木舞茸は、コナラやミズナラの木に菌を付着させた「ホダ木」を畑に植え込み、菌が土の中に回って結合し、地表に現れるのを待つという、手間も時間もかかる方法で栽培されます。



丹波山村で生産している原木舞茸

特集 06



第4分科会 丹波山村
地方創生推進交付金活用事例
及び移住・定住促進事業取組
紹介

丹波山村地域創造課
主任 矢嶋 澄香

な原木舞茸の生産効率を向上させるため、村では令和2～4年度に地方創生推進交付金を活用し、施設を改修。菌を付着させたホダ木を一定の温度で保管し、培養できるようにしたこと、カビにより廃棄となるホダ木の発生数が大幅に減少しました。

1年かけて丁寧な育てられる原木舞茸の収穫期間は、9月下旬から10月上旬のわずか3週間ほど。菌床栽培に比べ収量は限られますが、その黒々とした姿、香り、そして歯ごたえは、まさに別格。村のふるさと納税の返礼品としても人気があるほか、毎年9月末には原木舞茸を使ったさまざまな料理が楽しめる「舞茸祭」を開催し、多くの人が訪れるなど、関係人口の創出にもつながっています。



丹波山村役場での事例紹介の様子

会場を移し、丹波山村役場では村の移住・定住促進事業の取組について紹介しました。丹波山村の人口は、ピーク時には2,300人を超えていましたが、現在は1/4に減っています。人口減に歯止めはかからないものの、10年前と比較すると、9歳以下の子どもの数は13人から29人に倍増しているほか、30代・40代が占める割合が増え、高齢化率は47.97%から43.30%に低下するなど、人口構造に若返りが見られています。

ちょうど10年前、村では地域おこし協力隊の受入を始めました。これまでの総採用者数は43人に上り、ここ数年は常時15人前後の隊員が活動しています。隊員が丹波山村を選ぶ理由として、都心からのアクセスの良さに加え、村全域をフィールドに活動できることや、行政との距離の近さ、同じ地域に「仲間」や「先輩」が多いことが挙げられます。

地域おこし協力隊の積極的な受け入れや、民間有志によって立ち上げられた「丹波山村移住定住推進協議会」による情報発信や相談対応などが評価され、移住情報誌の「住みたい田舎ベストランキング」で2年連続1位を獲得しました。今後も小さな村の特徴を生かした移住定住の取組により、500人でも活気ある村づくりを推進しています。



丹波山村で活動する地域おこし協力隊